

分類	番号	意 見	考え方
観光振興に関すること	1	観光客が増えても一市民には喜ぶべきことが思い当たらない。観光施設やみやげ物屋、飲食店、宿泊所などの観光関連業者が潤うだけではないのか。	近年、観光のニーズとして個人旅行のニーズが増加しつつあり、個人的に、観光地で地場の生活を楽しむスタイルが増えつつあります。本構想では、第4章の中で「恵那の暮らし観光の推進」を施策として位置づけ、市民生活との関わりが深い例えば農業等も観光メニューになるように検討を進めていくことを予定しています。また、観光等による交流人口の増加や関連する就業の場の拡大による定住人口の増加などについても検討を進めていくことを予定しています。
	2	市外から訪れる観光客は商売人にとっては大切なお客様であり、その増加策は商売人が自らすればよい。「恵那市」としてやるべきことは、毎日恵那の地で生活している者の利便性を第一に考え、税金を投入し、リニアを有効に活用できるようなまちづくりをするべきであるとする。	市内の生活者の利便性については、リニア岐阜県駅と市内とのアクセス性の確保やリニア開業までの市民生活への影響にも十分配慮しながら、市民・事業者・行政が一体となって取組みを進めていきたいと考えています。観光客の増加策については、それぞれの店舗にて努力していただく必要がありますが、行政との協働による取組みによって、恵那全体のPR効果へと繋がることも考えられるため、関連する店舗や各種団体と連携しながら取組みを進めていきたいと考えます。
	3	○観光産業は脆い 観光産業ほど脆いものはない。それは生活必需品でないからである。そして、時代時代で人々のニーズが変化しているので、一過性の流行観光産業に手を出すと必ず失敗する。しかし、文化遺産など人類の歴史遺産については、息の長い観光価値が続くと考えられる。 岐阜県には、白川郷や高山祭りなどの素晴らしい民族遺産があるものの、観光資源に恵まれた県とは言いがたい。恵那峡下りなども、三峡下りと比較すれば箱庭以下の規模であり外国人にアピールする力をもっていない。 地球は狭くなり、僅かの時間で世界文化遺産を目にすることが出来るようになった。宿泊料金の高い日本国では、外国人観光客の来日も長続きしそうもなく、「おもてなしの心」も、独りよがりになる可能性がある。リニア新駅の開設を観光活性化につなげることは至難の業であり、従来感覚の対応には厳しさが求められていると考える。	リニアの開業は、移動時間の短縮や滞在時間の増加により観光への期待があります。市内には各地に豊かな観光資源があり、これらを生かした観光振興を進めるため、第4章で「リニアを生かした観光振興・まちづくりのための取組み」として整理しました。
	4	○眠っている観光資源の掘り起こしと開発を 東濃地方には掘り起こし不足、PR 不足の観光資源が数多くある。これらを歴史的遺産として、しっかりと位置づけ世に出す工夫をやり直す必要がある。 岩村や苗木城祉は、山城として希有な存在である。地歌舞伎、古い芝居小屋、半原・大井・付知・川上・真桑の文楽、佐藤一斎、三好学、下田歌子、前田青邸、熊谷守一、荒川豊蔵、塚本快示、加藤卓夫、加藤頭清、鈴木蔵などの学者芸術家などと共に、伝統的な祭り行事などの地域に根ざした遺産を価値高いものとして認めて貰うことが肝要と考える。さらに、観て楽しむ観光から味を楽しむ観光の充実も図りたい。地域に根ざす味の文化をもう一度見直し、全国に発信する必要がある。味の観光は決して寂れることがないことを明記すべきである。	観光資源については、第4章の「リニアを生かした観光振興・まちづくりのための取組み」で、市内各地の観光資源の連携・行政区にとらわれない近隣の観光地との連携や新たな観光振興資源の創出などについて整理しました。 また、「食」は観光産業にとって今まで以上に重要な要素と捉え、恵那の素材を生かした「食」の提供や伝統を大切にした「えなの食」の後世への継承について検討を進めていくことを予定しています。 ご提案いただいた地域に根ざした遺産については、第4章の具体施策で「地域の歴史・文化の理解の推進」として整理し、「女子教育の先覚者下田歌子、植物学の基礎を築いた三好学」を追記しました。
	5	○雲助会館の建設 名前は悪いが、雲助はかつて運輸業の立役者であった。JR 東海も雲助の末商そのものである。日本民族が培ってきた運輸に対する知恵の殿堂を中津川市か恵那市に建設する。御所車、大名かご、姫かご、早かご、牛車、馬車、人力車、荷車、大八車、うば車、一輪車、二輪車、三輪車、肩車、川かご等から現代の自動車に至るまで、あらゆる輸送の手段として使われた機具や方法を、ロボットを利用して展示する巨大な展示館としたい。そして、子どもたちには実際に乗って貰う体験コーナーを設ける。馬子が引く、鈴の鳴る馬に乗った「馬籠への旅」を想像すると楽しくなる。	第4章で、「新しい観光メニューの創出」として、観光鉄道施設の整備・活用や観光素材の再発見について記載しました。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。
	6	○雲助まつり 中山道の一里塚と一里塚の間を早籠で競争する催しで、市内各町対抗(年齢別)を手始めに県大会、全国大会に発展させる狙いを持っていく。詳細については、別途稿を起こすが、すでに恵那市観光協会に提出したものを参考にいただければ幸甚である。このイベントには、古来の運輸に関するすべてを街道行列として再現し、運輸の変遷を市民にアピールしたい。	第4章で、「新しい観光メニューの創出」として、観光鉄道施設の整備・活用や観光素材の再発見について記載しました。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。

分類	番号	意 見	考え方
観 光 振 興	7	○岐阜県大物産館の建設 岐阜県で生産されているあらゆる物産、食品、工芸品などを展示販売する。県の建設でも地元の建設でも良い。出店料は電気料金と整備料金に毛が生えた程度とし、出居者の経営負担の軽減を図り、安定的運営を目指す。新駅へ行けば、岐阜県の物産はなんでも手に入るとなれば、観光の目玉の一つになるだろう。	第4章の「リニアを生かした観光振興・まちづくりの取組み」の中で、「観光PR活動や観光キャンペーンなど全国に向けた情報発信を行います」という取組方針を掲げ、情報発信や観光PRについて検討を進めることとしています。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。
ま ち づ く り に 関 す る こ と	8	○変化が想定される居住条件 東濃は緑豊かで空気も美味しい。地道で人情味豊かな風土は、都会の人々の憩いと安らぎの場となることが必定である。そして、自然災害も少なく安心して居住できる地域でもある。 東京、大阪から 30～40 分で結ばれると、本宅を東濃にして、勤務先や別荘を東京や大阪に求める人々が増えてくると思われる。庭園、小農園付き住宅は、老後の安らいの住まいとして最適であり、農園付戸建の住宅開発が脚光を浴びる時代が来ると考える。そこで、今からその需要に応える開発計画を樹立しなくてはならない。老人村の出現を危惧する向きもあるが、人が集まれば活力が生まれる。福祉医療の充実と相まって「老人のはきだめ村」とならないように明るいまちづくりが必要である。	高齢化と人口減少が進む中、田舎暮らしや自然の中で暮らしたいというニーズは高まってきており、今後、暮らしや仕事の多様化が進むにつれて、より一層顕著になると考え、第4章の「移住・定住に関すること」で都市部との交流推進として「田舎暮らしへの潜在的なニーズの掘り起こしを目指し、首都圏や中京圏、関西圏の方に対する移住相談会の開催や二地域居住のPRを引き続き行います。」と記載しています。 また、第5章では、農業のある暮らしの推進や、リニア関連企業の住宅需要への対応としての宅地の供給について検討を進めることを記載しています。
	9	○スピードに対抗し、スローライフの味を リニア新幹線のスピードに対抗し、スローライフの生活をアピールしては、どうであろうか。明知鉄道にC型機関車を走らせる。暖房は薪ストーブ、カンテラに灯りを求める生活、囲炉裏のある生活、繭や綿や羊毛を紡いで糸をつくり簡単な衣類を作る生活、囲炉裏を使って食材加工をする生活、薪を使った窯でご飯を炊いて伝統の五平餅やほうば寿司などを作って食する生活。藁工芸や竹工芸に挑み、ぞうりや竹かごなどを自給する生活、時間に暇がない田舎古来の生活を体験してもらい、自然と共に生き、自然のままに生きる生活の営みを、リニア新幹線を降りる人に味わって貰っては、どうであろうか。人間の生き様の見直しがあってこそ、これからの人類社会は繁栄するものと確信する。	第5章の「リニアを生かした観光振興・まちづくりのための取組み」で、「ツーリズムの推進」として、都市では味わえない恵那らしい過ごし方、時間の使い方を感じられるスローツーリズム、体験交流ツーリズムなどの検討を進めることとしています。 また、観光鉄道施設の整備や豊かな自然、地域の温かさが味わえる田舎暮らしなどの検討を進めていくことを予定しています。
	10	○病院、医療大学、老人病院の建設 災害が発生すれば、都市集中型の大病院はその機能を失い、被災者の救急対応は災害に強い東濃に建設された病院に頼るしかない。少なくとも、中津川市と恵那市に二つの大総合病院を建設する必要があると考える。リニアで 30～40 分で搬送されることを考えれば、十分に緊急対応が可能である。研究機関の大学設置もできれば、地域の活力も 生まれる。 現在、全国にある 1,000～2,000 床を上回る老人病院ができれば、安心して老いた肉親を預けることが可能となる。規模は 3,000～5,000 床が望ましい。東京、名古屋、大阪の高齢者にとっても入院可能である。 各病棟には「看取りの部屋」を併設し、血族、親族、縁者が肉親の最後を見届けられるようにする。料金は、ビジネスホテル並みの料金をいただき、経営は民間に委ねる。 最近の日本特有の家族制度の崩壊は、肉親の死という厳粛なひと時に直面することが少なくなり、命の尊さも分からなくなってきた。「看取り」こそが、人間が人間としての誇りを自覚する貴重な場となる。親への思いやり、子へのいたわり、高齢者、身障者への愛を培う極めて重要な部屋となる。「完全看護の医療が進み、時間にゆとりのない最期を、泊りがけで見届けられる施設は極めて必要」と痛感し提案する次第である。 部屋は雑魚寝でよい。ベッドをできるだけたくさん配置して数多くの肉親縁者が泊まれるようにすべきである。老人病院とは、たらい回しをされることなく、死ぬまで置いてもらえる病院であり、安心して預けることができる病院である。しかし、現在の医療制度では病院経営が厳しいので、医療制度改革で経営を楽にして儲かる病院にすべきである。	病院等の施設建設については、リニアに関する構想の中だけ検討できる事項ではなく、市全体の政策として捉える必要があるため、恵那市全体の今後の検討課題として捉え、次期総合計画の策定の中で参考とさせていただきたいと考えます。

分類	番号	意 見	考え方
産業振興に関する事 こと	11	企業を誘致してもその恩恵に与ることが出来る人は限られている。	企業誘致により、優良な企業が立地することで、市内の雇用の創出にも繋がります。また、市の税収が増加し市民の方への安定的な公共サービスの提供にも繋がり、市の活力にも効果がもたらされるものと考えます。
	12	目線を商工業者優遇より市民生活重視へと変えてほしい。そうすれば市民生活にマッチしたリニアの活用方法が思いつくのではないかと。	第2章の「リニア開業がもたらす効果・影響」の中で、分野ごとに期待することと市内の各地域において生かすべき資源を整理しました。また、「リニア開業により変わる恵那の暮らし」の中で市民生活の変化を整理し、その対応として、第3章（将来像の実現に向けて）で、地域別の施策展開のイメージを記載しています。 これらを踏まえ、4章以降の具体的施策で、恵那の良さを前面に出し、市民生活との関わりを視野に入れた各種施策を整理しています。
	13	○文化財の疎開地としての開発 国宝、文化財などは大都市集中型となっている。東京に大地震や大津波が襲来したら、貴重な文化遺産はひとたまりもなく災害に遭い消滅してしまう恐れがある。そこで、最近の複製技術が極めて高度になっていることを考え、既存の美術館には複製を展示し、本物は災害の少ない東濃に保管するようには、どうだろうか。年に一度「本物展」を東濃で開催すれば、観光客で地域は潤う。松代大本営地下壕建設構想に比べれば穴掘り技術も飛躍的に進歩しているので、地下式保管庫の建設も進めたい。	第5章の「リニアを生かした産業振興・地域振興の取組み」の中で、「自然災害が少なく、日本の真ん中にあることをPRした企業誘致展開に取り組みます」という取組方針を掲げ、企業や関連機関の誘致促進などについて検討を進めることとしています。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。
	14	リニア開業に向けて会社の本社移転、大学、高校、専門学校の設置、大型店の誘致	第5章の「リニアを生かした産業振興・地域振興の取組み」の中で、「自然災害が少なく、日本の真ん中にあることをPRした企業誘致展開に取り組みます」という取組方針を掲げ、企業や関連機関の誘致促進などについて検討を進めることとしています。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。
	15	大型店を中心に商店の近代化を図る	リニア開業を契機に新たな産業などの誘致に取り組む一方で、地元の産業活性化を図っていくことが必要と考え、第5章で商業・サービス産業について整理しました。ここでは「地域の歴史・文化と連携した商店街の活性化」「衣食住の充実と観光と連携した商業の活性化」を取組方針とし、「中山道の沿道に延びる商店街や駅前の商店街の活性化に向け、にぎわい創出につながるイベントの開催や歴史・文化を活用した商店街事業などを、地域住民との連携により持続的に開催できるよう引き続き支援を行います。」と記載しています。
基盤整備に関する事 こと	16	リニアに期待することは、交通が便利になることが一番の事であると思う。第一に交通インフラ整備に重点をおいてほしい。恵那市へ人を呼び込むことよりも、恵那市から都会へアクセスしやすい環境を作ることの方が重要である。観光客が恵那市へ来やすいようにすることよりも、恵那市民がリニアを便利に使えるようにすることに重点を置くべきである。	リニア開業への期待は移動時間の短縮による交流人口の増加と捉えており、そのためにもリニア岐阜県駅と恵那市内を結ぶ交通基盤を整えることは重要な課題と考えております。第6章ではリニア岐阜県駅、恵那駅や病院などへの円滑な交通手段の確保を方針とし、市内アクセスルートの整備やリニア岐阜県駅までの公共交通網などについて検討を進めることとしています。 ご提案頂いた恵那市民がリニアを便利に使えるようにすることについては、市内アクセスに関する取組方針に、「リニア岐阜県駅までの円滑な交通アクセス」を追記しました。
	17	混雑度の算出方法はどのように算定しているのか	平成22年の道路交通センサスのデータを基に整理しています。混雑度が1.2以上であれば慢性的な渋滞区間といわれています。
	18	今回、工業団地に誘致が決まった業者が、多治見方面からは県道66号を使い、中央道からは国道19号を使うと説明された。武並にICを作ると明記した方が良い。	工業団地へのアクセスは重要となりますが、新設となる武並町でのIC設置に関しては、今回の構想では明記されておらず、今後、検討していきたいと考えます。
	19	恵那ICや恵那峡SAと明記されているが、今あるものでは時間短縮にならない。工業団地の誘致を狙って武並ICを明記すべき。	恵那ICや恵那峡SAの記載は、これらの施設がリニア岐阜県駅とのアクセスにおいて重要な施設であることを意味した記載であり、両施設とリニア岐阜県駅とのアクセス時間の短縮が重要であることを意味しています。また、工業団地へのアクセスは重要となりますが、新設となる武並町でのIC設置に関しては、今回の構想では明記されておらず、今後、検討していきたいと考えます。

分類	番号	意 見	考え方
	20	リニア駅に向かうための高速道路のインターチェンジとして武並ICは無いのか	岐阜県の「リニア活用戦略」において、濃飛横断自動車道の整備に取り組むこととされています。この道路は中央自動車道とリニア岐阜県駅に接続されることとなります。
基盤整備に関する事	21	三河東美濃連絡道路の構想を、具体的に絵を描いて進めるべき	三河東美濃連絡道路は従来から関係機関への要望を行っており、本構想内において第6章の「広域アクセスに関する事」において、継続的な要望活動の必要性について記載しています。
	22	○リニア新駅を中心とした交通アクセスの整備 リニア新駅を最大限に活用するためには、新駅を中心とした交通アクセスの整備が、先ずもって肝要である。私は、中央道中津川・恵那インターと新駅を大動脈で結ぶことの必要性を提言したい。 県道苗木恵那線は、道幅も狭く、曲道も多く大型車の通行が困難だけでなく、明知鉄道とも交差しており危険度が高い。そこで、恵那駅前から金沢町で行き止まりになっている道を拡幅して中央道の下を潜り、坂本農協横で中央線と立体交差して新駅横を通り、苗木と結んで国道257線につなぎ変えるのである。こうすれば災害時の物流にも支障がなくなり、リニア利用者にとっても快適となる。また、中津川インターからの路線もできるだけ直線化し、新駅と直結することが望ましい。諸車の新駅への乗り入れが容易 になることを優先課題として考えてもらいたい。建設費用は JR 東海の助力も得て、県、 恵那市、中津川市が負担することで解決可能と考える。	リニア岐阜県駅へのアクセスは在来線に加え、車が主な交通手段であるこの地域においては、道路が重要な役割を果たすことから、第6章で「広域交通網の形成」として、「リニア岐阜県駅は、岐阜県で唯一設置される駅であるため、他市や他県との効果的なアクセスルートとなる広域的な道路について、関係機関との協議・調整により戦略的な整備を進めます。」と記載しています。 ご提案いただいた「中央道中津川・恵那インターと新駅を大動脈で結ぶ」ことについては、岐阜県の「リニア活用戦略」においてその役割を担う濃飛横断自動車道（リニア岐阜県駅の南北アクセス軸を形成・南側は中央自動車道及び国道19号に接続）について取り組むこととされています。本構想では、中津川市と恵那市の両市街地を結び、リニア岐阜県駅へのアクセス道路としての役割を持つ道路について検討を進める予定としています。
	23	○物流拠点、備蓄拠点づくりを 災害に強いリニア新駅の完成は、災害時物流の重要な柱となること必定である。トラック輸送は、いざという時に役立たなくなることが多い。東濃に大型の物流拠点をつくり、いざという時には、リニア新幹線を利用して生活物資を搬送するために東濃に生活物資の備蓄拠点をつくり、緊急時対応に備える。 また、ネット販売の進展は、大都市の百貨店の全ての商品を僅か数日でお客様に届けることが可能となり、都会へ行かなくてもブランド品が手に入る時代となってきた。もう、田舎と都会という感覚の時代ではない。東濃に百貨店の小さな支店を設けるだけで、生活者ニーズが、満足させられる時代であることを、認識した上でのまちづくりが必要である。	災害時における物流拠点や備蓄拠点の整備については、リニアに関する構想の中だけ検討できる事項ではなく、市全体の政策として捉える必要があるため、恵那市全体の今後の検討課題として捉え、次期総合計画の策定の中で参考とさせていただきたいと考えます。
	24	明知鉄道の延長（静岡県まで）と高速化を図る	リニアを生かしたまちづくりでは、既存の資源を活用することは重要であると考え、明知鉄道についても、第6章の「地域づくりを支える基盤整備の取組み」の中で、「リニア岐阜県駅から市内の観光地までの円滑な移動手段を提供するため、リニア岐阜県駅までの直通バス運行や明知鉄道の延伸を検討するなどの新たな観光に資する基盤の整備を検討します」と記載しています。具体的な事業内容については、いただいたご意見等も参考に、今後検討していくこととなります。
	25	駅裏の再開発が遅れていますので早急に進める	リニア効果を広く享受するため、第6章で「リニア効果が市内全域に及ぶための基盤整備」として、「恵那駅北側広場や市街地を中心とした環状道路についても検討を進めます」と記載しています。
全般・その他	26	観光振興、農林業の振興、定住促進、地域産業の振興、いずれも私には必要性を感じない。	平成24年度に行った市民意識調査によるリニア整備に対する市民の期待は、「観光や仕事・通学で東京・名古屋へ行きやすくなること」に続き、「企業の進出が増えること」「リニア駅へのアクセスなど基盤整備が進むこと」の順で期待が寄せられています。リニア開業による地域への幅広い波及効果を適切に捉え、地域の発展に向け市民・事業者・行政が一体となって、リニア開業を見据えたまちづくりを進めていく必要があると考えております。また、構想策定にあたって組織した「リニアまちづくり構想市民委員会」は、各種団体等の市民メンバーに参画していただき、各会議でご議論いただきながら検討を進めてきました。

分類	番号	意 見	考え方
その他	27	○湧水の上水利用 地下式のリニア新幹線により井戸水への影響が心配されている。水源が変わることは間違いないが、新幹線周辺部に湧水の貯水池をつくり、上水として利用することを考えてはどうか。湧水は川の水とは違い、そのままでも飲用に供することが出来るほどきれいである。浄化も楽であり、湧水も厄介者として位置づけないですみ、井戸利用者への補償にも役立たせることができる。	恵那市内の通過距離のうち約8割がトンネル構造となっており、工事に伴うさまざまな懸念があることは承知しております。 これらの懸念は直接関わる地域の皆様と協議を進めていくこととしており、今後、地域の方々と協議する上で参考にさせていただきます。
	28	○自然災害に弱い文明 人間は自然に対して謙虚にならなくてはならない。いかに科学技術が発達しても、自然の連続的な巨大エネルギーに対抗する力を持っていないことは、前にも述べた。 今回の大雪で恵那でも3つの地域が停電に見舞われた。僅か 24 時間足らずの停電であったが、電気に依存した石油ストーブは使えなくなり寒さに震えた。電気釜も機能を失いご飯も炊けなくなった。炭の備蓄もない。例え、炭があっても炭が使えるコタツも囲炉裏もない。オール電化の生活では入浴も出来なくなってしまったなど、数多くの反省が寄せられた。謡曲にあるように「盆栽の梅を切って暖をとって貰う」と言う日本人特有の「おもてなしの心」も、火を焚く囲炉裏が無くては通用しない。山の国、木の国でも、雪に埋もれては薪をつくることもできない。昔は、軒下に薪がたくさん積んである家は、「身上(しんしょう)が良いと羨ましがられたが、いくら薪の備蓄があっても、かまどがなくなっている昨今では、炊飯も不可能である。カンテラもロウソクも姿を消した。一見、文明社会と言われる現代社会は、原始時代以下の生活適応力になってしまった。生きるたくましさを失った人間様の前途は、暗いと言わざるを得ない。 かつて東濃地方では、「首都機能は東濃へ」という運動が、首長、議員の間で叫ばれていたことがある。首都機能とは何であるか、よくわからない。大蔵省や文部科学省を東濃へ持ってこようと言うのであろうか。国会議事堂が壊れても小学校のグラウンドで論ずることができる。何も赤絨毯の上でなければ、国会を開くことが出来ないと言うものではない。しかし、病人や怪我人の治療は病院でしかできない。透析は電気が無くては、不可能である。自然災害の少ない内陸部への「命の預託所」を移転することこそ、コンクリートで固まれた巨大都市の急務の課題である。電気を失った数十階のビルの災害対応を考えるだけでも怖い。リニア新幹線で、より近くなった田舎は、巨大都市を救うメッカである。 スピードで何を救うか。スピードで何を開発するか。安全なスピードの探究で、これからの世界の政治経済、文化、資源、環境等などの問題を、どのように変貌させてゆくか。こうした問題を、リニア新幹線の開通を機にさらに深く考えてゆきたい。	ご意見として賜ります。
	29	○市へ要望します リニア駅が出来るこの機会に坂本を中核にした街づくり、恵那と中津川が協力し合い出来るなら合併して東濃市に、出来が少しでも良くなる方向へ進む為と．．．このままだと駅名が中津駅になってしまう。恵那にとっては東濃駅の方が良い。今一度、市の方々もお考え下さいませんか。お願いします。	リニアまちづくり構想は、リニア開業による波及効果を地域の発展に向けた機会と捉え、市民・事業者・行政が一体となって、リニア開業を見据えたまちづくり、地域づくりの方向性と、市民・事業者・行政による取組みの進め方を示すものとして策定しました。 策定にあたっては、岐阜県や中津川市との連携を重視しながら、それぞれの計画策定の委員会へ参画し進めてきました。岐阜県では「リニア活用戦略」、中津川市では「リニアのまちづくりビジョン」を策定し、連携を取りながらさまざまな取組みを進めることとしております。 リニア駅の駅名については、事業が認可され工事などが進められた後に決定されることとなりますので、今後、検討を進めることとなります。
全般・その他	30	リニア新幹線は、車内の滞在時間も短いので豪華さを追求する必要は無く、機能本位で、安全ベルトは必要である。 車椅子の乗り入れを可能にし、障害者用特別座席を設ける必要がある。 ベッド搬送、コンテ搬送が可能な車輔配置は申すまでもないが、更に緊急医療対応車両の配備も望ましい。料金を心配する向きが強いが、利用客アップで既設新幹線並みの料金が良い。	リニア車両や運行サービス等のリニア中央新幹線に関する直接的な内容については、本構想内での対応は難しいため、ご意見として頂戴し、関係機関へ情報提供を行います。